

令和3年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	総合評価（3月22日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等	（2月書面実施）	成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①探究活動、体験活動、研究活動を充実させ、生徒一人ひとりの個性をいかした教育課程を編成するとともに、主体的な科目選択ができる系と分野のシステムを充実させる。 ②創造力、推進力、発信力の育成と学習習慣を確立させ、生徒一人ひとりが積極的に自己を伸長させるための学習を支援する。	①生徒一人ひとりの個性をいかし、創造的な活動ができる人材を育成するために、新学習指導要領に基づいた教育課程を編成するとともに、主体的な科目選択ができるよう工夫をする。 ②学習習慣を定着させ、生徒一人ひとりが積極的に主体的な学びに取り組めるよう支援するとともに、プレゼンテーション能力を育む。	①各系、分野の施設設備を活用し、専門教育を充実させ、自ら課題を解決する力を育む。生徒の現状や関心に即し、単位制、2学期制の特色を活かした教育課程を編成し、学習計画ガイダンスで理解しやすいよう説明する。 ②生徒が主体的に学べるよう、計画的に研究授業や校内研修会を実施し、授業改善を図る。	①生徒一人ひとりが課題に対して自ら解決策を講じ、積極的に取り組んでいたか。生徒一人ひとりが主体的な科目選択に取り組んでいたか。 新学習指導要領の施行に向けた教育課程の編成ができたか。 ②研究授業や校内研修会を実施したか。また、「生徒による授業評価」の3、4が90%以上になったか。	①7月と12月に学習計画ガイダンスを実施した。履修する科目の内容を丁寧に説明し、生徒の興味・関心に基づいた個人時間割を作成することができた。 新学習指導要領に基づいた令和4年度入学生用の教育課程編成を終えることができた。年度末にむけて、令和5年度、令和6年度の教育課程の検討を進めていく。 ②生徒が主体的に学べるよう、研究授業および校内研修会を実施した。その結果、生徒による授業評価において7項目中5項目において評価の3、4が90%以上になった。	①個人時間割作成の作業が煩雑で、担当者に多くの負担がかかっている。選択科目の精選を行うなどの方策が必要である。 ②新型コロナウイルス感染症の影響により制限がある中で、生徒の主体的・対話的で深い学びにつながる充実した授業ができるよう、各教科での更なる工夫が必要である。	①きめ細かな履修指導や学習計画ガイダンスにより生徒一人ひとりの時間割が作成されていると思います。担当者の負担がかかっている状況は、先生方の知恵を出し合って工夫し、軽減される方策を整えていただきたいと思います。  ②安定した授業が行われていることが生徒による授業評価によって理解することができます。より細かな意見を拾い上げて、共有していただくようお願いします。	①年2回実施した学習計画ガイダンスや、担任・教育課程グループの個別履修指導の結果、生徒の興味・関心、進路希望に基づいた個人時間割を作成することができた。令和4年度入学生教育課程編成表を完成し、令和5年度・6年度の教育課程編成表の作成を進めることができた。令和4年度の早い時期の完成を目指している。 ②生徒授業評価について、授業の在り方等で80%以上の肯定的な回答を得られた。今後は対面授業だけではなくリモート授業においても高評価が得られるよう取り組みたい。課題研究発表会において、ICTを活用し、コロナ禍においても実施することができた。データを蓄積して活用していきたい。	①学習計画ガイダンスの時間が限られているため、資料等を工夫してさらに解りやすい指導を進めていく。 令和5年度・6年度の教育課程編成表を早い時期で完成させ、新カリキュラム2年目の学習計画ガイダンスに活かしていく。  ②臨時休業等の状況におけるリモート授業において、対面授業と同等の授業が展開できるよう検討する。課題研究において、過去のデータを蓄積し、単年度ではなく継続した研究になるよう検討する。
2	生徒指導 ・支援	①生徒一人ひとりの豊かな人間性を育み、生徒理解に基づく生徒指導や教育相談体制を充実させる。また、安心して安全に希望をもって学べる学校をつくる。 ②生徒の主体性の育成に向け、学校行事や生徒会活動等を充実させる。	①生徒一人ひとりの規範意識を育て、主体的に責任ある行動ができるように継続的な指導を計画し進める。 ①生徒一人ひとりの多様性を踏まえた校内支援体制の推進を図り、安心して安全な、明るく活力のある学校をつくる。 ②学校行事や委員会活動において、生徒が主体的に企画・運営を行えるようにする。	①名札の着用や交通・通学ルールの遵守など、基本的な規範意識を養う環境を作る活動や、関係グループと連携し、それらを浸透させる活動を行う。 ①年次会を中心とした情報交換の徹底や関係グループとの連携により、生徒の様々な相談や課題に対応できる組織づくりを行う。	①安心で安全な学校生活に向けた取組及び生徒の規範意識向上に向けた取組を充実させることができたか。 ①年次会やケース会議、いじめ対策会議、関係グループとの連携により、生徒の状況を適切に把握し、相談や課題へ組織的に対処できたか。 ②各行事の事後アンケートで生徒の満足度が80%以上になったか。	①名札の着用や交通・通学ルールの遵守など、基本的な規範意識を養う環境を作る活動や、関係グループと連携し、それらを浸透させる活動を行ってきた。 ①年次会を中心とした情報交換の徹底や関係グループとの連携により、生徒の様々な相談や課題に対応できる組織づくりに取り組んだ。 ②コロナ禍ではあるが、事前申し込みや、チケット配付、人数制限等の工夫と感染対策を徹底した上で、体育祭、文化祭、芸術鑑賞会等の学校行事を実施することができた。内容や日程変更等、制限された中での実施ではあったが、生徒は概ね満足していた。	①指導を行った直後からしばらくは継続してルールを守ることができ、一定期間経つと忘れてしまうので、継続的な取り組みを行う計画を立てることが必要である。 ①情報共有や連携の取りやすい組織づくりは継続して行う必要がある。また、多様な生徒が在籍しているため、教員向けに支援方法の研修なども検討していく。 ②学校行事等に対して現状以上に生徒が主体的に活動できるよう、行事の内容や取り組み方等を工夫する。	①学校生活でのルール遵守や、交通安全教育の実施等について、生徒の規範意識の醸成のために粘り強く、継続的な指導をお願いします。  ①いじめの未然防止のため様々な取組に感謝します。生徒の変化を見逃さずにキャッチできるよう、研修等を積んで、組織として支援いただけるようお願いします。  ②コロナ禍にもかかわらず体育祭・文化祭が開催されたことを評価いたします。生徒や先生方の密接な意思疎通のもとに準備され実施されたことと思いますので、ぜひ、今後に活かすようにしてください。	①学校生活でのルール遵守や、交通安全教育の実施により、規範意識を持たせることができた。生徒の規範意識を継続的に保たせることが課題である。 ①組織のないいじめ未然防止への取り組みと関係各署への連携をとることができた。今後も継続して連携をとるとともに、生徒一人ひとりの課題に合わせた支援が必要である。  ②各行事、部活動については生徒のカリキュラムマネジメントの充実に努めることができた。各行事の満足度は、体育祭の各種目で70%以上、文化祭で80%以上となり高いものが得られた。感染防止対策の中での実施ではあったが、80%の目標値に近い成果を得られた。	①継続力の無さが大きな課題であるため、定期的な朝の通学指導や、LHRを使った規範指導などの導入が必要である。また、名札の着用や衣服への啓発など、職員も含め共通の認識を得る方法を検討する。 ①生徒への支援と指導の充実をはかり、SC・SSWの拠点校である利点を活かした体制の構築を行っていく。  ②次年度も感染防止に努めた行事企画が求められると予想される。生徒の主体的な活動を十分に支援して職員間の協力体制を一層高めていく。

3	進路指導・支援	社会で生きるために必要な知識や能力を身につけるとともに、個々の進路希望を実現させるための支援とキャリア教育を充実させる。	生徒一人ひとりの主体的な進路希望を実現するために、キャリア教育及び進路支援体制を強化する。	生徒の進路意識を高め、進路実現できるように面談や各種ガイダンスを適切に実施し、支援を行う。「総合的な探究の時間」を活用し、自己のあり方、社会とのかかわりについて考える機会を設ける。計画的なアセスメント及びインターンシップなどを実施する。	生徒の進路実現のための支援を行い、卒業時の進路未決定者数を減少させることができたか。自己の進路について考える機会をもたせることができたか。進路実現に資する模試の実施割合が、計画に対して80%以上実施することができたか。インターンシップに参加した生徒に行ったアンケート結果の「満足できる」が、80%以上になったか。	生徒の進路意識を高め、進路実現できるように面談や各種ガイダンスを適切に実施することができた。また、総合型選抜や学校推薦型選抜で「総合的な探究の時間」で取り組んだ探究学習を活用し、少しずつではあるが成果を上げることができた。模試は計画的に100%実施することができた。インターンシップはコロナ対策を講じて実施された。	生徒一人ひとりに向き合いながら面談や各種ガイダンスを行っているが、進路意識を少しでも早く持たせることができるようにしていきたい。「総合的な探究の時間」と総合型選抜や学校推薦型選抜と連動できるよう、検討する。	推薦入試等による進路決定者が多くいますが、生徒一人ひとりのニーズに沿った指導だと思います。大学入学共通テストにかかる丁寧な指導もお願いします。生徒の希望進路の実現に向けて、引き続き、丁寧なご指導をお願いいたします。	成果としては、面談・各種ガイダンスを踏まえ、卒業後の進路未決定者がほぼなくなり、生徒一人ひとりの主体的な進路実現がおおよそ達成されたことである。課題としては、「総合的な探究の時間」をどのように活用できるのか検討する。	各年次と緊密な連携を継続して取り組み、適宜、進路ガイダンスを効果的に実施する。また模試を積極的に活用し、進路実現につなげる。「総合的な探究の時間」をどのように活用できるのか検討する。
4	地域等との協働	①積極的なボランティア活動を展開し、地域の小中学校や自治会など近隣地域との連携を深め、地域に根ざした教育活動を推進する。 ②学校の情報を広く地域に発信し、地域に開かれ、地域と共にある学校づくりをさらに進める。	①コミュニティ・スクールを利活用するとともに、地域および他校間との連携を図り、生徒一人ひとりの主体性を育成する。 ②学校の活動や生徒の様子をホームページ等を通じ地域へ広く発信する。	①地域の小学校（2校）と連携し行っている高校授業体験について、小学校の意見を参考に方法や内容を精査しより良いものとなるよう検討する。 ②ホームページ運用を学校全体で取り組み、内容の充実を図る。	①高校授業体験に対し、小学校の理解を得られるような内容を計画できたかどうか。  ②ホームページ運用を学校全体で行い、例年の更新回数40回を上回ることができたか。	①コロナ禍のため小学校との連携を計画したが、実施についてはやむを得ず中止することとなった。来年度に向けて高校授業体験が小学生にとって視野を広げられる機会になるように、実施内容の検討を行った。 ②ホームページの書き込み方などの教員向け講習会を実施し、学校全体で運用することで、更新回数が58件を超え、例年の更新回数を上回ることができた。	①高校授業体験を毎年充実したものになるように検討実施する。また、コミュニティ・スクールの新たな活用方法を検討する。 ②さらに魅力あるホームページの更新を目指し、学校全体での運用を促すとともにこれからのホームページの活用方法を模索する。また学校での様子を地域全体に発信できるような環境を整える。	①高校授業体験が実施できなかったことは残念ですが、再開できる状況になったときは、ぜひ実施していただきたい。  ②ホームページでの情報発信は、中学生等に学校の教育活動を理解していただく有効な手段だと思います。一部更新が滞っていることが確認できます。改善していただきたいと思います。	①高校授業体験の内容を充実するための検討はできたが、春と冬に行われる予定であったためコロナ禍の中、実施に至らなかった。生徒・教員・地域の方による清掃活動や図書館と連携した活動は工夫したうえで行うことができた。  ②ホームページを学校全体で運用することができた。また、更新回数も増やすことができた。来年度はホームページの詳細な設定などを定期的に見直しつつ、さらなる活性化を目指す。	①来年度以降、授業体験に実施するために、日程等の変更や実施方法などを検討する必要もあると思われる。小学校と連絡を取りながら、今後も取り組みたい。また、来年度もコロナ禍でもできるところから地域と連携した活動を行っていききたい。 ②連携広報の活動をコロナ禍でも最大限に生かせるような企画を考えていきたい。今後も学校内での、ホームページの書き込み方法について周知徹底を行い、活用するよう全体に呼びかけを行っていく。
5	学校管理 学校運営	①事故・不祥事の未然防止を徹底するとともに、教職員の実践的指導力を向上させる。 ②生徒の防災意識を高め、防災教育を推進する。 ③教員や生徒、保護者など学校関係者が協力した、式典を事故なく執り行うとともに、生徒の学習成果発表などを積極的に発信する。 ④教員のライフワークバランスを推進するため教員の働き方改革を推進する。	①事故・不祥事防止のさらなる徹底を図る。また、私費会計の適切な運用を行う。 ②防災教育の充実を図り、生徒一人ひとりの防災意識と防災対応能力を高める。 ③式典等の学校行事を滞りなく運営する。 ④長時間勤務を是正する。	①事故・不祥事防止に係る研修会を充実させるとともに、教職員が相談しやすい環境を整える。また、会計基準に基づき、適正に予算を執行する。 ②生徒・保護者に対して、災害時の行動について啓発できるような安全指導対策を実施する。 ③PDCAサイクルにより、式典が一層充実するように努める。 ④「ノー残業デー」を実施するとともに、勤務時間内の会議を徹底する。	①事故・不祥事がゼロであったか。 ②防災教育として、大規模災害時を想定した生徒・保護者・教員・地域が連携した訓練を2回実施できたか。 ③関係部署と緊密な連携をとることで、式典を円滑に進行することができたか。 ④月2回以上「ノー残業デー」を実施できたか。 勤務時間を超えずに会議を行うことができたか。	①事故・不祥事防止会議での研修などにより、事故不祥事ゼロを達成した。会計業務においては適切に処理し監査等で大きな指摘をいただくことはなかった。 ②防災教育として、昨年度のアンケート等をもとに、大規模災害時を想定した生徒・教員が連携した、より踏み込んだ訓練とDIGを行うことができた。 ③関係部署や該当年次との打合せ等を綿密に実施することで、式典等の学校行事を滞りなく進行することができた。 ④管理職からの声がけや、衛生委員会を活用して、長時間勤務の解消に努め、働き方改革の意義・実現への啓発を行うことができた。	①引き続き、研修等の機会をとらえ全職員で事故・不祥事をゼロとする。 ②さらに本校にふさわしい防災教育を実施できるよう内容の検討を行う。本校に必要な防災訓練の内容をよく検討し、感染対策も徹底しながら生徒・教員等がよりよい行動を可能にできるような訓練の実施を目指す。 ③より細部を充実させるため、PDCAの仕組みを効果的に機能させる取組を行う。 ④働き方改革のとらえ方が職員個々で差異がある。社会情勢の変化も踏まえ、組織全体として、職員の主体的な働き方の変革を促す必要がある。	①全職員で事故・不祥事をゼロとしたことを評価します。  ②生徒の安心・安全のため、引き続き、防災教育・減災教育の実施をお願いします。  ③コロナ禍でも、工夫して式典等を実施していただき感謝します。引き続き、感染予防対策を行い実施いただきたいと思います。  ④コロナ禍での業務拡大は、働き方改革を行っていくうえで、困難を伴うと思いますが、様々な方策を施して取り組んでいただくようお願いします。	①全職員一丸となり、事故・不祥事をゼロとした。ヒヤリ・ハット事例を含め、チェック体制のさらなる充実が課題である。 ①年間を通じて教育振興費の会計業務を適正に処理することができた。引き続き、監査等で指摘事項がないように万全を期したい。 ②1年間を通して様々な防災教育を実施することができた。防災訓練については今年度のアンケートなどを参考にしながら、来年度もさらに工夫した防災教育を行なう。 ③コロナ禍でも、重要な式典等の学校行事はいくつかのパターンを想定し、感染対策の徹底を図り、他部署や該当年次とも連携して実施することができた。 ④衛生委員会で通年の課題として啓発できたことを成果としたい。職員の意識変革が課題である。	①事故・不祥事防止のための確実なチェック体制の構築を目指し、事故・不祥事防止会議の充実と全職員の意識向上を図る。 ①会計業務に携わらない職員に対しても、マニュアルや処理方法を周知し、事故防止に努める。  ②防災訓練の充実を図るために、日程の調整なども行いながら防災教育・減災教育の検討を行い実施する。  ③これまでのノウハウや工夫を一定整理したうえで、より安心して式典や行事が開催できるように今後も取組を前進させる。  ④教職員の健康は生徒指導・支援の絶対条件であることから、組織全体で考えていく。